

令和4年（2022）度 第1回 大阪府立西成高等学校 学校運営協議会 記録

【日 時】 6月19日（土）10：00～12：00
【場 所】 大阪府立西成高等学校 多目的室 A
【出席者】 （会長）西田芳正委員（副会長）高見一夫委員 緋田隆平委員 榎井縁委員
田中俊英委員 寺嶋公典委員 堂上勝己委員 山下佳織委員

【内 容】

1. 校長挨拶
2. 委員紹介・事務局紹介ならびに会長、副会長選出
3. 議事
 - (1) 今年度の重点取り組み事項について
 - (2) 生徒の現状について
 - ①各学年の様子（各学年主任）
 - ②「学校生活と人権アンケート」結果について
 - (3) その他

【事務局からの説明および各委員からの意見等】

(1) 今年度の重点取り組み事項について

○令和4年度学校運営計画について

- ・基本的なところから学びを支えていく。支援が必要な生徒にどうアプローチしていくのかを目標にして進めていく。ここ3年で学校満足度9割を超えてきている。勉強が嫌いだが、学校好きになってもらえたら、卒業までいけるのではないかと、新しいカリキュラムづくりをしている。
- ・今年度の新1年生からは新しい学習評価がスタートしている。また9時35分開始、45分授業も開始した。
- ・今年の新たな指標は卒業率の向上である。今年度、中退率は従来の6分の1、7分の1まで下がってきている。昨年度末46期生はエンパワになって一番多い卒業率だった（79.7%）。今後は9割卒業をめざしたい。そのためにも1年から2年になるとき86%が進級したが、それを94%まで上げたい。2年から3年は大体進級する。180人～190人は卒業してほしい。その後、就職して生徒の1年後の離職率も下げたい。去年18%が離職したが令和6年度には1年以内の離職率10%以内にしていきたい。その意味でも就労支援をどうしていくか考えるため、「進路指導課」を「進路保障課」と名称変更した。1年から2年、2年から3年、3年から高校卒業までが本校における進路保障である。

<カリキュラム1年と2，3年との違いは何か。全体的に変わったことは何か>

⇒文部科学省が10年ごとに学習指導要領を改定している。それに合わせて、1年のカリキュラムが少しずつ変わってきている。例えば、公民科に「公共」という科目はなかったが、18歳で選挙権を持つように改正され、政治的な教育が必要になった。つまり18歳成人ということで教科書が変わったということである。ただカリキュラムが変わったと言っても西成高校のポリシーが変わったのではない。

<1年後の離職率を下げるためにどうすればよいのか。受け入れ側の企業の問題、企業と学校で、その生徒のことを考えていかなければならないのでは？>

⇒丁寧なマッチングが必要で、生徒が「これでいい」とムードに流されて就職をしないようにしなければならない。就職してから「こんな仕事じゃなかった」という生徒がいる。その為にも仕事を体験する仕組み作りが必要だ。特に3年生で体験をすることが重要ではないか。また、先生1人で20人の就職をみるのは限界がきている。関わる先生を増やさなければならない。企業と計画を立てて、離職率10%以内をめざしていきたい。

⇒応募前職場見学で、いろいろな会社を見学する。仕事に対する学び、どのような業種・職種を求めているのか、進路保障課を中心に丁寧に作り上げていきたい。女子は事務がしたい生徒が多い。事務ばかりしている会社を選ぶ。ほかにも、例えば「教育に携わりたい」という生徒の場合は、「教師」しか考えない。教育関係には塾や給食関係の仕事もある。そのあたりを考えると職業選択に関わる条件も緩和されるのではないか。

⇒就労支援で清掃のアルバイトを紹介している。アルバイトを紹介するとき、その人の特徴を事前に打合せすると仕事が続いていく。しかし1人の先生で20人位をフォローするのは厳しい。できても1人で10人位である。専門の先生をおくなどの工夫が必要。

(2) 生徒の現状について

①各学年の様子

<3年より>

- 進路に向けての写真撮影を先日行った。しっかりとした服装で撮影が行えた。
- 事業所説明会でつながりを持てた企業を中心に就職活動を行ってゆく。
- 進学希望者に向けて6月16日 奨学金（スカラネット）入力を行った。例年に比べ進学に前向き。7/1 実施スポーツフェスタにむけ、積極的に応援団の練習を行っている。

<2年より>

- 「社会的自立」を学年目標に。
- 授業で生徒に「10万円もらったら何に使う」という質問した。ゲーム課金や保護者にプレゼントという回答もあったが、「欲しい物がない」という回答が一番多かった。今の生徒の「気持ち」が分かった。
- 5月27日に神戸へ校外学習に行った。今後のことを見据えて現地集合で実施した。朝起きられない・電車が不安で休む生徒もいたが、無事終了した。
- コミュニケーションウィークでは、教室ではなく本校独自の廊下にあるカウンターテーブルなどで生徒と横並びで実施するクラスがあった。生徒の悩みとしては、「クラスに友達がいない」「話す生徒がいない」などがあった。クラス替えのプレッシャーが有る模様。

<1年より>

- 支援・配慮が必要な生徒が多い。また生徒指導にかかる生徒が多い。
- 中学校時代不登校も生徒が多いが、不登校を感じさせないくらいしっかり登校する生徒もいる。
- 全体的にコミュニケーションが苦手。今後、仲が深まるに連れ言いたいことを言い合うようになり喧嘩することもあると思われる。
- 昼から体育の授業があるときに早めに集まって鬼ごっこなどしている。
- 自分のことをよく見せようとしている（化粧をしたり、SNSで友達が多いことをアピールしたりする）
- 周りを見ることができない生徒が多い。

①人権アンケートについて

- 昔に比べるとやんちゃな生徒は少ない。障がいがある生徒や外国にルーツを持つ生徒が多い。
- 人権アンケートの回答者が去年に比べて少なかった。理由としては、定期テストがなくなり、アンケートを行う時間・タイミングが十分に取れなかったこと。スマートフォンではなくクロムブックを使用しようとしたが、前日の電波障害のためクロムブックでのアンケートができなかった。この2点が原因であると考えられる。
- 他学年に比べると2年が遅刻数・保健室利用の生徒が多い。
- 退学者は減ったが転学者が増えた。
- 自分のことを家の人は理解してくれていると思いますか？
→3年生は「わからない」が少なく、「まあそう思う」が多い。
- 誰といっしょにいるときに最も安心してくつろぐことができますか？
→学年があがるにつれ、友達が減り母親が増えている。
- 悩み事があるとき、誰によく相談しますか？
→2年生の「家族」の割合が少ない。
- アルバイトについて教えてください。
→昨年は学年があがるにつれて、アルバイトをしている割合が増えたが、今年度は2年生が最も多い。昨年は、コロナの影響もあり飲食店が厳しかったため。
- アルバイト代の使い道は？
→2年生の生活費・スマホの割合が高い。生活面でいろんな問題を抱えている生徒が多い。3年生は、将来のための貯金が最も多かった。
- あなたの家の経済状況はよいほうだと思いますか？
→「わからない」と答えたのは2年生の生徒が多かった。
- 寝るのは何時くらいですか？
→2時以降と答えたのは2年生が最も多く、遅刻に繋がっていると考えられる。
- 現在、授業のある日の放課後はどのように過ごしていますか？
→「家事」「小さい子の面倒や家族の介護」が、一定数いることを再確認しておく。
- 高校での学習は自分の将来につながると感じますか？
→1年生はかつてない多さであった。学び直したいという意識が高い。
- あなたはこれまで不登校だった時期がありますか？
→1年生の不登校経験者が非常に多い。どの学年も中2が最も多い。

(3) その他

<進路保障課より>

- 就職した生徒について
⇒離職理由として「思っていた仕事と違う」「思ったより厳しかった」
- 企業と学校教育との連携。企業採用方法・入社後サポート・将来像・様々な情報共有を大事にした。
- 2年対象のインターンシップ協力企業は55社。学校と企業でインターンシップを通してどのような生徒を育てるのか意識統一が大事。

<生徒指導課より>

1 ターム遅刻数について、2年生が多かった。2年生は学校が面白くないという生徒も多い。目標を持って朝からこられるようにしたい。また9時35分登校になり遅刻が増えた。理由として二度寝が多い。

<全体のまとめ>

- 遅刻数は0件の生徒もいれば、20件の生徒もいる。みんなが平均的に休むわけではない。全体的にどっちの流れなのか。始業時間変更についてのフィードバックをしていく必要がある。
- 福祉の授業で小高連携。高校生の生徒が丁寧に教えてくれると小学生も喜んでいる。地域連携でイメージアップを図ってみては？
- 定着支援ニュースを年2回ほど新聞で発行。
→スキルを求めるのではなく、見通しやマインドを高めていく。

以上